

- 「学校だより掲載内容」に関するアンケートにご回答くださり感謝申し上げます。
 概要は下記のとおりです。

項目	1 学年	2 学年	3 学年
回答数	3 0 4	2 3 5	2 0 5
①進路を決めるにあたって考えなければならないこと	1 3 7	1 0 0	8 0
②大学入試制度について	1 5 0	1 3 5	1 1 1
③大学・短大選びで考えなければいけないこと	9 7	8 7	5 8
④専門学校選びで考えなければいけないこと	4 0	4 2	2 5
⑤就職先選びで考えなければいけないこと	3 6	2 4	1 1
⑥進学・就職に向け、それぞれの学年でやっておかなければならないこと	1 7 3	1 1 9	4 0
⑦評定と進学先の関係について	1 5 0	1 0 8	9 0
⑧進学先とそれぞれに必要な経費について	6 3	6 8	3 4
⑩学校選抜型入試（指定校推薦）の条件について	2 0 2	1 3 2	9 2
⑪合格する生徒の学習習慣について	7 9	4 6	4 7
⑫上尾高校の進路指導計画について	9 1	5 5	4 7
⑬総合型選抜（AO入試）について	1 0 0	1 0 3	8 4

以上の結果を参考にさせていただき、今後の「学校だより」で必要な情報を共有したいと思います。また、大学入試制度については、学校だより第3号（6月19日、本校ホームページ掲載）にも記載されていますので参考にご覧ください。本校が発行している「進路の手引き」には、上記アンケート項目に関係する情報も掲載されていますので、御一読ください。

8月25日（火）は「東京2020パラリンピック競技大会」の開会式が予定されていました。パラリンピック競技からは少し離れますが、「全盲のマジシャン」という見出しで記事が掲載されていましたので紹介します。

30歳を過ぎてから、少しずつ進行する網膜の病気を発症し、人生を悲観したこともありましたが、目が見えていたら無かったような色々な出会いがあって、徐々に立ち直ることができた。これまで支えてくれた人への感謝は数え切れないと話すこの方は、鍼灸師です。鍼をきちんと並べておいて、手を伸ばせばそこにあるという状態に事前にセットしておくことで問題なく仕事を行っています。

マジックの練習は、教えてくださる方が二人羽織のように手に手を添えて練習します。全く見えないこの方は、「マジックは見えないとおもしろくないと思うかもしれないが、マジックをやることは見えなくても“人が喜ぶということを楽しむ”ことができる」ことに気づきマジックをはじめたそうです。最初は戸惑いもあったマジックを教える方は「本人が『どこまでやれるか挑戦したい』のだろうから付き合おう」と練習パートナーになったが、当初はすぐに諦めると思っていたそうです。しかしこの方が諦めることはありませんでした。本気で取り組む姿に、「厳しくしないと本人も納得できないでしょうから」と、教える方も本気で応えるようになりました。「障害があるからこんなものか」というのでは、見ている人がつまらないと思う。私だけじゃなく障害がある人はみんなそう思っている」のだそうで、教える方が帰ったあとも自主練習を欠かさなかったようです。「人の3倍努力してやっと人並み。それが、目が見えない人にとっての当たり前」と常々考え、“自分の努力が誰かの勇気になれば”と地道にマジックを練習し、舞台に立つまでに上達しました。

小学校などで講演することもあるようです。「今までで一番うれしかったのは、できないと思っていたことが、一つ一つできるようになったこと」だと語ります。説得力のある言葉です。小学生も「失敗しても、ちゃんとやり直したり、成功するまで挑戦したい」と考えるようになるということでした。

惜しまない努力は、どこかで誰かに勇気を与えている。そう思えるエピソードでした。